



図書館史研究会事務局  
図書館情報大学 藤野研究室  
☎ ( )

本号の主な内容

- ・ 現代中国の教育と図書館史研究 ----- 藤野 幸雄 (図書館情報大学)
- ・ 案内：第7回図書館史研究会名古屋セミナーについて
- ・ 報告事項
- ・ 最近の会員の業績

現代中国の教育と図書館史研究

藤野 幸雄 (図書館情報大学)

これまでの三年半の間、一年半は北京にいたので、現代中国の図書館事情についても少しは詳しくなるべきであろうのに、仕事が日本研究の大学院学生に日本の出版、書誌、図書館のことを教えることと、日本研究の資料センターの基礎づくりだったため、さらには中国語の勉強に追われて、この方面の研究はあまり進まなかった。しかし、一年半もいると資料は少しずつ集まってくるし、図書館ならびに図書館学が当面している問題とその社会的な背景が見えてくる。ここでは中国の図書館史研究の現状を理解するためのいくつかの話題を報告することとしたい。

まず、四つの現代化を進めている中国が現在とくに解決を迫られているのは、国際化し、情報化した社会が当然ぶつかるべき経済格差の問題であろう。物価の急激な変動と拮がりつつある貧富の差は、教育の場にも現れ始めている。ほんの四年前には、大学生の勉学意欲が見てとれ、中国も文革以後十年にして学歴がものをいう社会に移行するかに思えた。ところがここ一・二年で状況は一変し、大学生の意識も変わってきている。「毛語録」を知らない若い世代が増え、当然の

ことのように実利を求めるとしても、これをくいとめるすべは無いのかもしれない。国がまかなうべき学生の生活は最低のところであり、不満は政府への抗議となって現れつつある。

都市に職を求め、そのため人口がふくれあがっている北京では、大学生の多くが都市に残ろうとし、近年における就職の配分制の廃止に歩調をあわせて、実務に則した学科を志望するようになり、教育職は敬遠され、大学院に入ろうという学生は少ない。北京大学ですら日語系の大学院は学生の応募がなく、ここ二年は休まざるをえないと聞く。確かに、大学の教師と企業の初任給は五倍というほどの開きがある以上、大学に残ってすこしでも勉強をつづけるよう学生にすすめるのは至難のわざになってくる。大学の教育自体がこうした曲がり角に立たされているとき、学問研究の動向をうんぬんするのは適切ではないようにも思える。中国の学生の多くが、アメリカと日本を勉強の場として選び、この勢いはこれからの数年も衰えるとは考えられないし、なかには日本で図書館学を学びたいという学生も増えている実態を受けとめながら、中国における図書館学の動向を語るのには、いささかためらいに似た感情を抱かざるをえない。

こと図書館学の教育について言うなら、近年における「図書情報学系」の新設は目をみはらせるものがある。わずか六年前には北京大学と武漢大学が中国での図書館学教育の拠点であったのに、現在ではほぼすべての重点大学、師範系大学は軒なみこの系統の学科を構えている。わたしの訪ねた範囲でも、黒竜江大学、南開大学、山西大学、蘭州大学、南京大学、杭州大学、四川大学、厦門大学、中山大学には、名称はいささかの違いがあるにせよ、新設の学科があって、毎年40-60人くらいずつ学生をとっていた。もう卒業生を出しているところもあると思われる。そして、とくに科学技術の分野にあっては、大学以外でも、医学や農学の学術図書館の学位をもつ職員に資格をあたえて、学生を指導できるような実験的な試みもおこなわれている。

こうした盛況はどのような社会的な要請に基づいているのであろうか。実際のところはよく分からないし、質問しても納得のいく答えはえられなかった。図書館の現場に理論武装をした職員を配する、という答えはひとつの解答といえる。情報化時代に対応して、卒業生を各方面に布石していく、という答えも分らないくはない。しかし、図書館学から出発している「図書情報学」が、とくに社会主

義の社会にあって、学の領域は拡大したにせよ、卒業生の進路が他の専攻の者とかちあってよいとは思えない。ソ連の場合のように、図書館の数を革命以後60年にわたって増やしてきた国とは異なり、この国では解放後の歴史はそれほど平坦ではなかった。

ともあれ、学科が増えるにともない、学術雑誌がその数を延ばし、教科書が書かれ、その内容は充実してこよう。近年の中国では、確実にこの二点は指摘できる。大学の学科から出される紀要のたぐいは現在では30をこす勢いではないかと推定出来る。新たに出版された教科書もあり、内容は検討に値する。詳しく調査したわけではないが、わたしが語学の勉強のために中国人の図書館員とともに読み流していた図書館概論の初級用教科書は、章だてはソ連のものに似ているとはいえ、現代に則した理論構築が見てとれる本であった。こうした現象の背後には、現在教育の職にある人たちの研究業績の質的向上を認めねばなるまい。

論文の数がふえているのは確かであるが、こと図書館史の領域ともなると、必ずしも盛況であるとは言えない。それにしても、日本よりは論文発表の場に恵まれている。課題となるのは、論文を書ける後継者を今後どのように養成してゆくかであろう。

図書館史にかかわる本としてはいくつかの点が注目をひく。その一は図書館史の教科書である。『中国図書と図書館史』は1987年に武漢大学出版社から、『西方図書館史』は1988年に商務印書館からそれぞれ出版された。前者は謝灼華を主編者とし、武漢大学、中山大学、北京師範大学、華東師範大学の七人の専門家が専門の時代を担当して書かれている。345ページのうち、近現代にかなりの比重をかけており、魏晉南北朝から清朝までは蔵書の発展について、清末から1949年までは図書館事業の発達、図書館学の教育と研究について書いている部分が多いところからも察することができる通り、図書の歴史から図書館の歴史へのアプローチの移行が認められる。解放以後の時期は扱われていない。北京大学、武漢大学では従来「中国図書史」「中国図書館事業史」の科目が開講され、これに対応する教科書が作られていたが、現在の専門教育の拡がりに対応すべく書かれていることは明らかである。欧米図書館史のほうは、最近『朝日新聞』で名前をみかける楊威理さんの著作である。著者には百科辞典の同項目という業績もある。楊先生とは三年前からの付き合いがあり、この本の完成をすなおに喜びたい気持ち

が先にたつが、わたしとしては教科書としての通史を個人でまとめる仕事において先を越された感もある。全体としてのバランスは良く、古代と中世に偏することもないし、記述は公正である。近代は1789-1870年の図書館について一章、1870-1945年で一章、続いてソ連の図書館、東欧社会主義国家の図書館、1945年以降の図書館、図書館の現代化が章の見出しとなっている。ついでに言うなら、中国の図書館史は一万部、欧米の図書館史は5,800部が印刷刊行されている。

基本の教科書が成りたつばかりでなく、これをささえるサブ・テキストが刊行されはじめていることにも注目しておきたい。『外国図書館学名著選読』は「ブリタニカ」「アメリカナ」「ラルース」「ソ連大百科」の「図書館」の項目の訳文と、ノーデからシェラにいたる図書館学の代表的著作からの抜粋、さらには歴史上の図書館員34人の略伝等を集めている。わが国ではこうした部分的な抜粋を好まない傾向があるが、学生の側からすれば「図書館概論」「図書館史」の理解にはこうした本は必要であろう。中国図書館史のサブ・テキストとしては『劉国鈞図書館学論文選集』などがあげられよう。

北京図書館の歴史が近いうちに出版されると聞いている。北京図書館といえは一昨年の新館完成を機に、現代中国を代表する百人ばかりの画家、書家が新たな作品を寄贈しこれを集めた一冊の画集が出ている。まことに見事な作品ばかりであり、文にたいする彼我の理解の差というものを感じさせられた。北京図書館でさらに思い浮かぶのは、新館のある紫竹園公園の近くにある書目文献出版社は図書館関係の書物を刊行しており、『中国省市図書館概況1919-1949』といった本も含まれている、といったことである。

図書館員と図書館学研究者は、現代中国では必ずしもめぐまれてはいない。とはいえ、そのなかで着実に研究をすすめる、教育に打ち込み、図書館学の水準をたかめようと努力している人たちも多いのであり、彼らからは図書館にたいする熱意が感じられる。欧米図書館史を上梓された楊先生はその一人であった。

(終)

=====

第7回図書館史を考える名古屋セミナーのご案内

本ニュース・レター第34号でご案内のとおり、今年のセミナーを下記のように名古屋市内で開催いたします。是非ご参加くださいますようご案内いたします。

記

1. 日 時 ----- 平成元年 8月30日 (水) 午後1時から  
同 8月31日 (木) 午前12時まで
2. 場 所 ----- 名古屋観光会館  
( 名古屋市中区栄2丁目12番31号 Tel  
地下鉄「伏見駅」下車・徒歩5分 )
3. 定 員 ----- 先着 40名
4. 参加費 ----- 2,000 円  
\* 8月30日、同会館にて夕食をかねて懇親会を予定しております。希望者のみを対象とし、会費は1人あたり 6,000円です。  
\* また、和室の相部屋ですが、宿泊も可能です。女性の方については、ごく少数ですが、別に部屋を用意できます。1泊朝食付き、1人 約 6,000円
5. テーマ ----- 「図書館史研究の方法論」  
(ニュース・レター第34号参照, 発表者は目下交渉中)
6. 申し込み ----- 参加希望者は、「はがき」に氏名・住所・電話番号・所属を明記の上、お申し込みください。その際、①懇親会参加の有・無、②同会館での宿泊希望の有・無 も必ずお書き添えください。  
\* 申込締切 ----- 6月24日 (土) 必着  
\* 申込先 -----

加 藤 三 郎

7. その他 ----- 今後、本セミナーに関するご案内等は、参加申し込みの方のみにさせていただきます。ご了承ください。

平成元年 5月

名古屋セミナー研究委員会 委員長 光齋 重治

(中部大学三浦記念図書館)

委員 校條 善夫

(東海女子大学文学部)

委員 加藤 三郎

(名古屋市鶴舞中央図書館)



地下鉄「伏見駅」⑤出口より徒歩5分

### その他報告事項

† 運営委員会報告 4月6日午後6時～8時、御茶の水“滝沢”にて開催以下の事項を審議しました。

- ・ 1989年度予算の承認 (下記①参照)
- ・ 1989年度事業計画の承認 (下記②参照)
- ・ 中林 隆明 (国会図書館), 根本 彰 (図書館情報大学) の両氏を監査に選任
- ・ 名古屋セミナーの実施について 等

### ① 1989年度予算

(収入の部)

1)	会費	153,000
	(89年度 134名, 88年度 18名, 87年度 1名)	
2)	前年度繰越	235,932

---

	合計	388,932
--	----	---------

(支出の部)

1) ニュースレター作成発送費	80,000
2) 事務局費	70,000
3) 予備費	238,932

合 計

388,932

② 1989年度事業計画

- 1) ニュースレター (年4回)
- 2) 『図書館史研究』第6号
- 3) 第7回図書館史研究会名古屋セミナー

† 新入会員

最近の会員の業績

‡ 大串 夏身

「戦火をくぐりぬけた資料群から」 日本近代思想体系12付録〔月報6〕  
1988.12 p.7-9.

‡ 小川 トキ子

「岐阜県図書館史(6)」 中部図書館学会誌 vol.29 no.1 1987.4 p.61-80.

‡ 小黒 浩司

「張建国「我国第一个公共図書館建立時地弁正」訳注—中国初の公共図書館  
はいつどこに設立されたか—」 図書館史研究第5号 1988.9 p.65-86.

‡ 河井 弘志

『アメリカにおける図書選択論の学説史的研究』 J L A 1987.11

「図書館旅行記 啓蒙主義時代の図書館学」 図書館史研究第5号 1988.9  
p.1-34.

「P. カールシュテット博士ご逝去」日独図書館員総会会報 2-3(6) 1988.

「ドイツ近代公立図書館思想の特質と英米からの影響(1), (2)」 図書館史研  
究会ニュースレター 28(1987.9), 29(1987.11)

‡ 川崎 良孝

シェラ, J. 『パブリック・ライブラリーの成立』(翻訳) J L A 1988.2

「図書館史における学校区図書館の意義(2)」 図書館学会年報 vol.34 no.1  
1988.3 p.19-30.

「図書館史研究の歴史と現状」(山口源治郎との共著)『図書館情報ハンドブック  
丸善 1988.3 p.149-53.

「図書選択論史と図書館史との接点」 図書館学会年報 vol.34 no.4 1988  
12 p.145-56.

- ‡工藤 一郎  
「漢書芸文志における篇卷について」 社会文化史学 (筑波大学歴史人類学系) 24号 1988.3  
「書誌学 (中国の部)」 『図書館情報ハンドブック』 丸善 1988.3.  
「漢籍版本の手引き」 書評—中国学入門：書誌学篇『東方』79号 1987.10
- ‡坂本 龍三  
「明治・大正期北海道における私立図書館の素描(5) 岡田健蔵と私立函館図書館」 北海道武蔵女子短大紀要 第19号 1987.3 p.1-28.  
「岡田健蔵と郷土資料の蒐集—「私立函館図書館日誌」に拾う—」 同上誌 第20号 1988.3 p.1-15.
- ‡埜上 衛  
「図書貸出の歴史の小論」 文化学年報37 1988.3 p.40-55.  
「明治・大正期小学校図書館目録の一例」 近畿大学短大論集 20(1) 1987.11 p.63-88.  
「1876年以前設立アメリカ公共図書館の各館史 (翻訳)」 同上誌 20(2) 1988.3 p.39-109.  
『図書及び図書館史』 (北嶋武彦編, 東京書籍 1988.8) 「第2部 西洋の図書及び図書館史」の「第3章 近世」(p.180-202), 「第4章 近代」(p.203-25).
- ‡阪田 蓉子  
「大学中央図書館における対学生サービスの史的変遷—貸出と開架」 図書館学会年報 vol.34 no.4 1988.12 p.178-84.

#### 事務局より

- ・ 図書館史に関する研究ノート, 図書館史文献の書評・紹介, その他図書館史について日頃お考えになっているところを原稿用紙12枚程度 (分量はとくにこだわりません。これより, 少なくとも結構ですし, エッセイ風の短文も歓迎します) にまとめられましたら, 是非事務局宛お送り下さい。本ニュース・レターを図書館史研究のミニ・フォーラムにしたいと思いません。ご協力願います。
- ・ 図書館情報大学に移された事務局が動き始めました。本研究会の活動について, 忌憚のないご意見をお寄せ下さい。会員参加の民主主義のうえに本研究会の発展を期したいと念じています。
- ・ 最後に, 本研究会の健全財政のため, 会費未納の方は, 年会費¥ 1,000お振り込み願います。

(片)